婦人と新社會

山田わか主筆

十一月號

大正九年二月二十三日第三種郵便物認可
大正十年十月二十三日印刷納本

毎月一回一日發行　第二拾一號　大正十年十一月一日發行



寒さの御用意

冬のお品は三越の品

冬の必要品は三越に一つ殘らず取揃へて御座います、三越の五分間は頭の先から足の先きまて即座に冬の支度になります三越は便利な店てす

◆三越の十一月◆

- ▼格安反物賣出し（一日より）
- ▼丸帯陳列（同）
- ▼半衿帯揚陳列（同）
- ▼婦人世界主催女流日本畫展覽會（同）
- ▼石川縣工藝品陳列會（十一日より）
- ▼國民美術協會小品展覽會（十二日より）
- ▼龍村平藏氏織物展覽會（十五日より）
- ▼英國ロイヤルアカデミー繪畫展覽會（二十日より）

東京市 駿河町

三越呉服店

◆三越の定休日◆十一月十日◆十一月二十五日◆

婦人と新社會

十一月號

人心に不安を抱かせたり、希望を與へたりするものはマルクス派の社會主義でありますが、併し、此の主義の創造者なるマルクス自身が、どの位ひの程度に迄「マルクス派」であつたかと云ふことは興味ある問題だと思ひます。

或る一つの學派が、其の學派の創造者を忠實に代表してゐないと云ふことの例は世間ザラにあります。エラスメスと云ふ偉大な神學者は、議論に於ては、宗教の上に國家をのせて置きながら、實際に於ては、國家の上に宗教をのせて置いたのですし、マキアベリはいつもマキヤベリ主義ではなかつたし、バイロンにはバイロン的でなかつた處が澤山ありました。

マルクス自身にも、『マサクス派』と云ふ着物がピッタリ合つてゐたかどうか。

マルクスが資本論を書いたことを聞いた彼の母が『カールは資本に付て、そう書いて計りゐないで、資本を造つて呉れゝばいゝのだが。』と云つたことを、マルクスは折りのある度毎に人に話して居たそうですが、實にマルクスの資本論は彼のマインドで、彼が母の言葉を忘れ得なかつたのは彼のハートですから、其處で、マルクス派と云ふものはマルクスの全部ではなかつたと考へられるのです。

マルクス自身をさへ全部覆ふてはゐなかつた『マルクス派』と云ふ着物を彼から讓り受けて、今、着ようとすることは、果して、賢いことであるかどうか。其の上に、何十年かを經過した後の今日、其のスタイルは後れてゐはしないかどうか。



家族制度と個人主義

家庭破壊の原因

過去の家族主義の家は、決して、家族の者の利益、幸福のために存在してゐるものではありませんでした。そして、今日の個人主義的な意見は其の家族主義が根本的に間違つたものであることを宣言してゐます。

實に、階級組織の下にあつては、家は、階級の作用のために家族の幸福を犧牲に供してゐました。階級から成つてゐる社會は靜止の狀態にあつて、そして、家は單に其

の階級を再び造り出す機關に過ぎないものでありました。

其處で、今日に於ては、嫡子相續の基礎を成して居る思想にも疑ひが懐かれるようになりました。則ち、何故に、長男が次男の上に立つべきかと云ふ疑問であります。つまり、それは個人の不平等を增長するものだとして見られるからであります。けれども、家族制度の見地からは、長子が相續人に選まれるのは長子の個人としての權利を認めると云ふよりも、むしろ、一家の財產のいはゞ管理人としてゞあります。そして、家は社會秩序の一定の位置を占めてゐるものでありますから、其の位置を維持するためには、家產を分配しないで一人の手に所有させて置く必要があつたのであります。

處で、さう云ふ家族主義の思想の上に建てられてある家は現代人の思想とは合はないものとなりました。社會のための家、家のための人と云ふ思想には最早現代人は耐へられなくなりました。此の頃、しきりに其の數を增して行く離婚、又は、家庭の破壞は此の思想の變化による處が決して少なくないのであります。現代人の頭では、家

は家族の者の幸福のために存在するものでありますから、其の幸福を與へるのでなく却つて、苦しみを與へるのであつたならば、其の家族關係を破壞しようとするのは、むしろ、當然でありませう。

又、過去の社會は身分關係から成立してゐました。けれども、今の社會は契約關係に變りました。そして、多くの人は此の契約が眞實の自由の表現であると思つてゐます。これは確かに一進歩であります。けれども、私共は此の契約關係から、もう一歩進んで組織關係に行き、そして、より完全な自由を得る處迄進まなければならないのであります。一體、身分關係は動物有機體の類似を基礎としたものでありますから、昔の階級社會や封建制度の社會を倫理的に見るなら、其れは贋物の有機體でありますで、其の贋物の組織は最早生きては居られなくなつてゐるのであります。此の贋物の組織と、個人主義との衝突が今日至る處の家庭に勃發する禍であります。其處で、今日の急務は家庭の凡ての作用を精神的に見て、其れを基礎として組み立てた本當の生きた社會組織の實現であります。

社會組織と家庭との關係は何であるかと云ふと、家庭は社會組織の原則の種を蒔いて、社會組織の苗を造る苗床であります。ですから、家庭は新しい苗を社會に供給し社會組織を新らたにする使命を持つてゐるのであります。つまり、昔の家族主義は重もに家のために個人を無視しようとしてゐたのに反して、私が此處で云ふ家庭は個人を生かすための家であります。贋物の有機體でなく、生きた有機體と家を爲して、其處から新しい社會組織を生み出そうとするのであります。

家庭を精神的に見るならば、それは、子供に生活の手段を獲得させるためにのみ存在するのでなく、人格に行く大道に出る門戸であります。現代の個人主義が家庭の破壞に傾いてゐることは前に申ましたが、私共は、家庭が破壞される前に、家庭のうちに存在してゐた力、其の效用を發見し、向上させ、有意義な其の目的を再び明らかにしなければならないのであります。そして、其の力を家庭以外に迄延長しなければならないのであります。

此の家庭と社會の關係をはつきりと了解し、そして、結婚は前に云つた社會組織を

造り上げる機關であると云ふことを明らかに見るならば、其の時に私共は、何故に一夫一婦の結婚が唯一の倫理的理想であるかと云ふことが分ります。又、何故、結婚關係を倫理的にするには其れが永久的であらねばならぬかと云ふことも了解出來ます。

　結婚生活の先づ第一の使命は、まだ發達してゐない子供に全く現れてゐない可能性を發見し、養育することであります。そして、其の仕事には眞の親子の愛がなければなりません。原則として、親程子供を愛す者は外にありません。集合保育、集合教育を主張する人は、專門の保母や教師の方が、教育學を納めてゐない母よりは兒童を訓練するにより適して居り、より完全であると云ひます。けれども、保母及び教師の作用は家庭に於ける母の作用と相待つて始めて有効なのです。

　親から子供を全然離してしまうことは教育上最も不合理な方法です。何となれば、親は僅かの數の子供のために全力を集中した愛を注ぎます。けれども、保母や教師はたとへ、どんなに親切な人であつても大勢の子供に其の親切を分配しなければなりません。子供の要求はいろ／＼ありますけれども、其のうちで最も重要なるものは親の

集中した愛であります。親の其の愛があつて子供の精神は始めて發達することが出來るのです。まだ、羽の生へない小鳥に暖い巣が必要であると同じように、子供には親の愛が必要であります。

自分の有益さとか、又は、功績とかには無關係に、いつも自分を尊敬し、自分を愛し、自分を歡迎する處が子供には無ければなりません。そして、それは自分を生んだ家庭の外にはないのであるし、其の家庭は兩親の愛によつて造られてあるものであり此の廣い世界に於て、子供が安心して居られる處は其處より外にないのです。其處で結婚は一夫一婦であつて永久的のものでなければならぬと云ふ理由が明らかになります。

親子の倫理的關係

昔の家族主義の家に於ては、家長である父が家族の柔順を要求し、家族を己れに屈服させてゐました。そして、彼の口から出るものが直ちに法律でありました。けれども、其の法律には必ず專横な點がありました。さう云ふ風にして一家の父を崇めると

云ふことは決して倫理的ではありません。現代の家庭に於ける親子關係がだん〱ゆるみ、そして、親に對する子供の尊敬心がだん〱稀薄になつて行くのは、家庭にさう云ふ無理があつたからであります。且つ又、個人主義の理論に於ては、子供は生れるとすぐ親と平等であります。ですから、家族のもが有機的にくつついて居るのでなく、唯、同居してゐるだけであります。

そんなら、子が親を尊敬すると云ふ倫的關係はどうして出來るかと云ふならば、それは、親が子の特性を發達させようとする役目に忠實であることによつて生れます。つまり、子供が後に社會に出て充分に活躍出來るように其の特性を發達させて貰ふことによつて子供は兩親に對して最高の尊敬心を持つようになります。つまり、父母は子供に肉體を與へた計りでは親としての尊敬を受ける價値がない、併し、子供に精神上の誕生を與へることによつて尊敬される價値が出來るのであります。

そして、此處にも、結婚は一夫一婦であつて、永久的のものでなければならぬと云ふ理由があります。

子供の精神的の發達を計る親の義務は子供が丁年に達したからと云つて終るものではありません。兩親は自分の生活から得た經驗と智識を自己の利益不利益を忘れて子供に授けるのみならず、成人した子供が人生に於ける困難に突き當つた時には、子供の最善な顧問であり、教師であり、有力な友であることによつて子供から尊敬を受けます。尊敬と云ふことの關係は相互的のものであります。則ち、子供の精神を尊敬することによつて、又、子供から尊敬されるのであります。

理想を持つ人は其の理想の燈火を他人に借すことが出來ます。そして、其の燈火を最も多く借りることが出來るものは其れを持つてゐる人の子供です。そして、さう云ふ子供は其の親を尊敬します。子供が幼い時には、理想を持つ親の顏付き、或ひは手つきを其の時は了解しないかも知れません。けれども、親の其の樣子が子供の記臆のうちに殘つてゐて、後に必ず了解する時があります。要するに、親は自分に對する尊敬心を子供に持たせることが親としての重要な一ッの義務であります。

尊敬心と云ふものは他人に對しても無くてならないものでありますが、此の他人に

對する尊敬心も家庭に於て養はれるものであります。つまり、自分の兄弟姉妹を尊敬させられることによつて他人を尊敬することを覺へるのです。そして、四海同胞主義と云ふのは此處から始まるのです。一般には、同胞に對する愛と云ふのは同種族の上に注がれたものでありますが、併し、これは、異種族の上に迄も注がれなければならないものであります。

一體、一家庭を社會の單位とすべきか、又は、いくつかの家庭が密接に共同した方がよりよく家庭の存在の目的を有效にするかに付いてはいろ〱議論がありますが、いづれにしろ、各家庭の私事に干涉することは善くないことでありませう。そして、共同と云ふことは或る目的を達する場合にのみ限るべきであります。たとへば、或る仕事を完成するに付て、又は、研究とか、宴會とか、賣買の機關の設置とか云ふようなことに。併し、共同するに付いて明らかな困難は趣味と意見の統一が難しいと云ふことであります。そして、これは、個人の特長が發達すれば發達する程困難になります。ですから、始めつからそれを見こして置かなければならないでせう。科學者、法

律家、藝術家、建築師と云ふように異つた職業に屬する人々が一所になつて共同することは大なる利益であります。若い者が成熟するに從つて、自分と立場を異にする人々に接近することは有益です。異つた人々の心持ちを知ることは、自分の未來の仕事に關してだけでも有利です。一ッの職業を持つてゐる人に接觸することは、其の職業の性質に關して讀書したり、又は、遠い處から觀察したりするよりも遙かに有益であります。

結婚の倫理的意義

結婚の倫理的の理論に關して此處に一言云ふ必要があります。けれども、此處では單に結婚が不成功に終る原因に附いて一言云つて見たいと思ひます。

自然の秩序と道德的の秩序との間に存在する相違の例として、『賢い結婚がまだ到底不可能な時期に於て、性の慾望は其の絕頂に達する。』とキャントは云つてゐますが、其の外に、此の自然の秩序と道德的の秩序のうちには明らかな根本的な不一致があります。たとへば、人の顏かたちと、其の人の性質とが一致してゐないような場合です

顔かたちはいはゞ先祖からの借りものであるかも知れません。これに反して、其の性質は顔かたちとは全く無關係な方面に造られもするし、又、自分でも造ることが出來ます。ですから、顔かたちだけで其の性質を判斷して結婚してしまつて、自分の思つてゐる人の性質とはまるで反對な性質の人と結婚してしまうこともあるでせうし、又若い時には現れてゐなかつた性質が、相當の年輩になつてから出て來たと云ふようなこともあつて、そして、それ等が皆結婚生活を不調和にしてしまうのです。其の外にも亦根本的に相容れることの出來ない所謂性質が合はないと云ふこともあります。

此の性質が合ふ合はないと云ふことは今迄よりも、これからは一層注意しなければならない問題です。今迄にも人はこれを無視してゐたわけではなかつたのですが、併し、それは、唯、漠然としたものでありました。けれども、今後はこれを立體的に、則ち、心理的に研究しなければならない、つまり、結婚の倫理的の理論に關して實驗科學の力を積極的に利用しなければならないのであります。

應用倫理は純粹な理論を基礎にするのみならず、實驗科學、則ち、生理心理及び個

人にいろ〳〵の影響を與へる處の環境に付いての智識にもよらなければならないのであります。昔の或る詩人は歌ひました。『道がなければ行くことが出來ず、眞理がなければ知ることが出來ない』と。そして、此の道とは實驗した智識で、眞理とは原則です。で、私共が道に沿ふて歩む時、つまり、經驗によつて進んで行く時、其の經驗が眞理の上に光りを投げます。處で、其の眞理に付いて考ふることもなく知ることもなく、又、沿ふて行かうとする道を見ることも出來ないならば、迷ふのは當然です。迷ふのがあたり前です。

結婚關係は未來に於ては益々複雜になります。新しい敎育の下に男女の個性が發達すればする程、夫婦の間の調和も困難になつて來ます。けれども、關係がどんなに複雜になつても、調和がどんなに難しくなつても、もし、結婚當事者が、結婚の理想的目的を忘れないで居るならば其の困難には容易に打ち勝つことが出來ます。そして、其の理想的目的とは、結婚した男女は精神的生殖を行つて次代を向上させる、其のために一生を費そうとする義務を悟ることであります。

其の義務を悟るならば夫婦はお互ひのうちに潜む最善な性質をお互ひに誘い出すようになる。そして、夫婦は共同して子供のうちに存在する最善な性質を誘い出すことが出來ます。自分の子供は全體としての次代の代表者です。ですから、兩親が子供のために盡すことは全體としての次代のために盡すことです。此の意味に於て、結婚は精神的生殖を行ふことであり、人類進歩の機關であります。

如何なる事業にも困難は必ず伴ふもので、そして、最大なる功績は最大なる困難に打ち勝たなければならないものです。人類社會を改造すると云ふやうな大事業に大困難が伴ふのは余まりに當然であります。そして、人類社會を改造するに付いての最大困難は、法律の變化でもなく、經濟狀態の改革でも、產業革命でもなく、實に人間の本能の敎育であります。

そして、此の仕事を爲すものは父母には相違ありませんが、併し、直接の責任者は母であります。なぜなら、本能の敎育は生れた瞬間から始められなければならず、生れた瞬間から子供に接近してゐる者は母でありますから。子供に乳房を含ませながら

子供の精神的可能性を認め、善良なる本能を育み不良な本能を押へるのは母でなければ出來ません。又、さうするには前にも云つた母の愛が必要です。そして、子に對する親の其の尊敬の反射として、親に對する子の尊敬が當然現れて來ます。引ひては、兄弟姉妹に對する尊敬が生れて來て、そして、それが同胞に對する愛に擴がり、そして、これが人類社會が改革される源であります。

で、私の家庭中心説は此の源を豐富にするのが目的です。ですから、私の家庭中心説には社會主義者であれ、共產主義者であれ、帝國主義者であれ、其の他如何なる主義を持つてゐる人でも反對の理由を持たない筈です。なぜなら、如何なる政體でも、如何なる制度でも其の成功不成功は人間性の如何にある、そして、私の家庭中心説は、ひたすちに、健全な人間性の養成を目的とするのでありますから。



理想の夫婦

ブラウニング夫婦とロメオとジユリエット

『結婚は戀愛の墓である、結婚してしまつた夫婦の間に戀愛が存在する筈はない。』と長い間云はれて來ました。そして、其の理由は『結婚生活は平凡である。妻は朝から晩迄、家事の重荷に煩はされたり、金錢上の心配に壓迫されて居るから、夫に靈感を與へるようなことは出來ない。又、物質上富裕な婦人でも、其の富裕から來る倦怠のために不活潑になつてゐるから、夫の刺戟劑となるものを何にも持つてゐない。まして、平凡な結婚生活のうちに子供をもてあまして、其の結婚生活に倦き／＼してゐる婦人が、どうして夫に對する愛を熱狂的に純に保つことが出來よう、快樂の火をど

うして始終燃やして置くことが出來よう。男の心を常に生き〳〵とさせて置く愛の力は一種の宗敎的神秘を必要とする。けれども、大抵の婦人は、妻となつた後には愛を增長せしむる凡ての材料を捨てゝしまう。そして、夫と云ふ名のうちに戀人と云ふものを失つてしまう。』と云ふのであります。

男も女もが、さう云ふ戀愛觀を持つてゐる結果、不幸に終る結婚が實に數へきれない程澤山あります。戀愛から生ずる醜なるものが其處に續々と現れて來ます。もと〳〵人間の性質には戀情を滿足させたいと云ふ慾慾が深く〳〵根强く喰ひ入つてゐるものでありますから、夫婦の間に其の戀情が消へてしまうならば、外に戀人を求めようとするのは自然でありませう。そうして、其の結果は、嫉妬、亂痴氣騷ぎ、戀愛の死骸子供の離義と云ふやうなことが現はれて來るのであります

一般の其の誤まつた戀愛觀及び結婚觀を排し、そして、戀愛は必ず、其の次に來る結婚生活と云ふ立派なシンホニーの序樂であらねばならないと云ふことの實例を私共に見せたのは詩人ブラウニング夫婦の結婚生活であります。ブラウニング夫婦は最後

迄熱情的な戀人同志でありました。靈感の源である戀情の神秘を一生涯少しも減らさないでゐました。ブラウニング夫人は一生涯、夫君を慰めるために歌ふ歌鳥でありました。彼女がフローレンスの墓の中に埋められた後にも、矢張り、彼女は夫君のためには彼を慰める歌鳥でありました。結婚前に

『愛は、愛が生れた處に又歸へるべきだ。』と夫人が歌つた歌を彼女は實現したのでありました。

戀を知る前に、彼女は田舍に淋しく生活してゐました。書物と詩を友として默想のうちに日を送つてゐました。そして、『私の心は生へつぱなしの蔓草のやうに地面に向つてうなだれて居た。』と後に夫君に語つてゐます。彼女の詩のうちに次のやうなのがあります。

『私は男や女の代りに幻影を友としてゐた。其の幻影を私は優しい友と考へてゐた其の幻影がかなづる音樂よりもより美しい音樂を私は知ろうとはしなかつた。』と。

けれども、ブラウニング氏が彼女の前に現れた時に、其の幻影も、幻影がかなづる

音樂も彼女から消へてしまいました。彼女は幻影の代りに、力强い實生活を掴みました。そして、彼女のたましひが永久に步むべき道を見、其の道を進むための勇しい樂の音を聞きました。

人が、夢のうちに見るような理想的結婚生活が此の地上にあると云ふことを多くの人は信じませんが、併し、ブラウニング夫婦の生活を直接知つてゐるものは、其れが可能であることを信じると云はれてゐます。結婚生活中の每日のいろ〳〵な出來事は、それがどんなに些々たるものでも夫婦の間の愛を濃やかにし深くして行つたと云はれてゐます。

二人の愛は、ブラウニング氏が彼女に手紙を送つたことから始まつてゐます。氏が『心の底から私はあなたの詩を愛します。そして、あなたをも愛します。』と書いたことからあの美しい戀愛談は始まり、そして、其の冠は結婚でありました。結婚をしたゝめに二人の愛は一層嚴肅に一層豊富に、そして、ます〳〵貴い理想的戀愛に進んで行つたものでありますゝ彼女の詩の一節に次のやうなのがあります。

『私はあなたをどんなに愛して居るでせう。どんな風に私があなたを愛したかを語らせて下さい。それは、私のたましひが達することが出來るだけの深さ、廣さ、高さであつて、そして、目に見へないけれども感じることの出來る私の命の終り迄も其の先き迄も續いてゐます』と。

そして、其れに對するブラウニング氏の詩の一節には、

『愛する妻よ、私を信じよ。我々の歩んで來た道をふりかへッて見ると、我々の若い時には、老年に達した今の愛の幸福を夢にも思つてゐなかつた。今の幸福にくらべては若い時分の結婚生活は、むしろ、無駄であつたように私には思はれる。これは誇るに足るものではないだらうか？』と云ふのがあります。

又、二人が老　になつてからブラウニング夫人は云つてゐます。『私の夫は大分此の頃年がよつたと人は云ひますが、併し、私には彼が青年時代であつた時と同じように美しく見へます。』と、

實に、此の二人の結婚は、『戀愛は結婚の墓である。』と云ふことと、『結婚した男女

の間に戀愛は存在する筈がない。』と云ふ言葉を立派に打ち消してゐます。
戀愛によつて、美を生ずるのも、亦、醜を現すのも、皆其の人々の生立ちがしからしむる其の人々の人生觀と、そして、戀愛に對する其の人々の態度によるのであると私は思ひます。

世間には戀愛を經驗することによつて、心身共にいよ〳〵すこやかになり人間味が豊富になり、肉體も精神も益々美しくなる人が一方にあると同時に、又、一方には戀愛を知つたゝめに、其の容貌と云ひ態度と云ひ、いよ〳〵卑猥に淫奔に流れて行く人があります。そして、これを例へて云つて見るなら戀愛によつてます〳〵健全になる人は、地味豊かな地面へ完全に發育して充分に熟した戀と云ふ種子が蒔かれたので、其の種子は、やがて、芽を出し、スク〳〵と成長し花を開き實を結ぶに反して、卑猥に淫奔に流れて行く種類の人の戀は荒地に落ちた雜草の種子で、澤山芽を出すことは出しても、併し、其れは役に立たない、役に立たない計りでなく、むしろ、他の有益な花や果實の成長を妨げる種類のものでありませう。

自分は種族と云ふ限りのない鎖を繋ぐ一ッの環である。自分の血の中には過去の何萬人の血が流れて居り、そして、自分は永久の未來に其の血を傳へて行くのであるから、自分は過去の人々、並びに、未來の人々に對して、重大なる義務があると云ふような人生觀を持つた人の戀愛は眞摯であり、高尙であつて、そして、さう云ふ人の戀愛こそ、花も咲き實も結ぶ、そして、人格が美化します。

けれども、これに反して、同じく戀愛をするのであつても、過去に對し未來に對した全く責任觀念を缺き、戀愛を目して自己の快樂の具としようとする人は戀愛のために益々醜惡に低劣になつて行くのであります。

自然の秩序と道德的の秩序との間には相違があることの一例として、キャントが、『實い結婚が、まだ、到底、不可能な時期に於て、性の慾望は其の絕頂に達する。』と云つたことは前の論文でも申ましたが、實に、戀愛の完成である結婚をして一家を持つと云ふ準備が全然出來ない先きに、もう、戀情は燃へ上がつて來ると云ふのでありますけれども、もし、道德的の訓練を受けて居るものならば、人生にはは制限がある

ものだと云ふことを知つてゐますし、自制をする習慣も持つてゐますから待つことが出來ます。そして、燃へるような慾望を押へて待つと云ふことのうちには、精神の向上、戀愛の美化、活力の充實と云ふような利益があるに反して、其の道德的の訓練を缺いてゐる者は、自制が出來ず、と云つて、結婚不可能な狀態に居るので、いつの間にか結婚外の性的關係を造ると云ふことになります。そして個人的には、生理上精神上の進歩發達の芽を枯死させ、社會的には風致の亂れとなり、種族的には種族の質の惡化となり、そして貧民の源を增大して行くのであります。

一體、人の本能と云ふものは、利己主義、又は、享樂主義に傾いて居るものです。野蠻人は戀愛に關しても、勞働に關しても、本能の趣くまゝに行動をとつてゐました本能が異性を求むれば、其の時の事情が何であれ、周圍の關係が何であれ、すぐ、異性の許に走りました。又、働きたい時に働くし、働きたくなければ働かずにゐましたそして、さう云ふ生活には進歩向上と云ふことはありませんでした。

今日の人間の理性は、本能のまゝに働いて居ることの、自己のため計りにも不利益

であることを悟るようにはなつて居りますが、それでも、猶、目前の自分の利害のために止むを得ず、自分の本能の慾望を一時制限して居るのであつて、もと／＼其れは自分にとつては無理なことでありますから、自分に及ぼす利害が無くなつた場合にはすぐ、もとの利已主義に歸つてしまうと云ふ狀態にあります。

進歩向上と云ふことが人生の目的であり、そして、其の進歩向上には必ず本能を制限することが必要であることを理性が私共に敎へます。勞働にしても一日に八時間とか十時間とか、時間で縛ばられて働くことは殆んど誰にでも苦痛であります。則ち、それが人の本能にさからつて居るからです。けれども、理性に伴ふ責任觀念と云ふものが其の苦痛に打ち勝つので勞働は繼續されます。ですから、苦痛に打ち勝つ責任觀念の多少が進歩の多少を意味するのだと云はれて居ます。

性的關係に關しても、自制、責任觀念を捨てゝ居るならば、それは精神を枯死せしむるのであり、精神が無ければ動物と同じですから、結果が醜惡になるのは理の當然です。產兒制限、則ち、避姙と云ふことを私は性的關係より生する醜のうちの大きな

償の一ッに數へて居るものでありますが、其の理由の一つは、戀愛の權利を主張して其れに伴ふ責任を回避するものであるからであります。成程貧民や、心身の虛弱な者や、其の外惡質の病氣を持つてゐる人々には子供を生んで貰いたくはありません。けれども、其の本能の要求には從はふ、だが、其の結果の責任は逃れようとする態度が如何にも醜惡です。戀愛を單なる快樂の具として取り扱つてゐる處に、人格の努等さが現れてゐます。本能が少しも精選されてゐない野蠻人と同じだからです。

平生の修養が、及び、責任觀念が戀愛を偉大ならしめ、美化すると云ふことに付てエレンケイは云つてゐます。

『さうは云つても、戀人達が、其の法悅の刹那に於て、其の意識を、現在と未來とに別ち自分の幸福と、未來の子供の幸福とに別つと、云ふのではない。人の心靈はさう云ふ風に不器用に働くものではない。心靈の意識は情緒によつて支配せられ、其の瞬間には無意識になつてゐるかも知れない。そして、充實の瞬間に於ては其の動機は忘却せられて居る。が、併し、其の決定的の力は減じてゐない。競技者は、

其の勝を制する瞬間に於て、其の準備的練習を記憶してはゐないが、併し、其の勝を制した瞬間の運命を決定したものは其の準備的練習であり、又、藝術家が其の創造の瞬間に於ては學生時代の辛勞を記憶してゐるものではないが、併し、彼の創作の完全を決定したものは其の學生時代の辛勞である。」と

ですから、前に擧げたブラウニング夫婦が世界的に有名な理想的戀人達であり、理想的夫婦であつたと云ふことは、此の兩人の生立ち、修養、及び、戀愛觀がしからしめたのであることは明らかな事實です。古今東西を問はず、美しい戀愛は澤山ありました。青春に燃ゆる若い戀人達の純な熱烈な愛は詩に歌はれ、劇に仕組まれて、眞人に讃美されて居ります。けれども、其の戀愛は、大抵、戀愛で終つてゐて夫婦の愛に迄成長してゐないものが多う御座いました。たとへば、美しい戀人の標本として、ロメオとジユリエットを擧げることが出來ます。けれども、あの二人が置かれてあつた周圍のあの狀態があゝ云ふ風に熟した二人の間を塞くのでなく、順當に二人を結婚

へと導いて行つたならば結果はどんな風になつてゐるのでせう。あんな風にのぼせ易い二人には、又、心がはりがありはしないかと云ふことが氣遣れます。現に、ロメオはジユリエットを始めて見た瞬間迄、ローザラインと云ふ娘に夢中になつてゐたのでした。ローザラインが自分の思ふようにならないで氣を腐らせて鬱々としてゐるのを友達が見かねて彼の心をなぐさめるためにジユリエットの家で催される宴會の席へ彼をひつぱつて行つたのです。すると彼はジユリエットを見るなりローザラインのことはころりと忘れてしまつて其の晩にジユリエットと深い戀仲となり、とうとうあの悲劇を生むに至つたのです。

劇として、又は、小說として見る時には其れで結構です。けれども、私共の實生活にあてはめて見る時には其れではもの足らないと思ひます。殊に、劇、又は、小說が私共の生活の標準となるもの、私共の指導者であるとしたならば、戀愛を戀愛で終らしめないで、結婚生活迄、延長させたいものだと思ひます。前にも云つた通り、戀愛を結婚生活と云ふ立派なシンホニーの序樂であるようにしたいと思ひます。

單なる戀愛が人生の花で、結婚が戀愛の墓であると考へることの代りに、戀愛が新芽で結婚生活が花で、子供が果實であると考へることによつて、人の生活は餘程健實になるると思ひます。

家庭をもつた既婚婦人の生活に、もつと、餘裕が出來て、修養も出來、夫に計りでなく、家族の凡ての者に靈感を與へ得るような狀態になるように工夫をする必要こそありますが、併し、今、差し當り其等の婦人に餘裕なく、疲勞、又は、倦怠の結果、女性美や精神美を失つてゐるから、夫が他に戀人を持つのは當然であるように考へるのは、以ての外の考へ違ひ、むしろ、罪惡であります。

で、結婚當事者以外に戀人をもつことや、戀愛から始まつて結婚に終る事件が、重もに劇に仕組まれ、小說に書かれる代りに、其が結婚から始まり、そして、如何にして戀愛が夫婦の愛となり、そして、如何にして二ツのたましひが一生涯結びついてゐたかと云ふような劇や小說が現れるようになることを私は望みます。



機械と人生

現代機械産業の社會學的解剖

機械が我々の生活に及ぼす影響

現代社會の構造は其の性質が産業的であつて、そして、此の現代社會と云ふ事を廻してゐる兩輪は企業と機械であると云ふことは誰にでも了解出來る事實である。物、及び、人間の精力を支配し、使用する技術は、實に機械を基礎としてゐるものである。

處で、此の機械を活躍させる商業企業は、重もに利益と云ふことに刺戟されて動いてゐる經營者、又は、企業家の手のうちにある。勿論、利益にのみ支配されてゐない人間があると同じように、機械によつてのみ支配されてゐない部門が産業界にはある。併し、産業界に企業家が占めてゐる位置は策略を廻すに好都合であると云ふことと、且つ又、機械の勢力、

殊に、一般人の幸不幸に直接關係をもつてゐる機械の力と、此の二ツが國民の生活上に重大な影響を與へてゐると云ふことは事實である。

其處で、産業及び商業の範圍に於ける社會道德の問題は二方面となる。そして其の一方面は國民の生活と性質の上に機械が及ぼす文化的影響に關するものであつて、もう一方面は機械生活と最も密着な關係のある商業企業の倫理である。で私は、今、其の二方面のうちの一方面、則ち、機械産業が國民の性質、及び、生活にどう云ふ風に影響するかと云ふことに付て述べて見たいと思ふ。

一體、現代生活に於て、機械産業の役目は何であるかと云ふことを理解しようと思へば、先づ、機械の意味を明らかにしなければならない。そして、機械の意味を明らかにするには、機械と道具との區別をして見る必要がある。つまり、鋸と材木を挽く器械との區別である。鋸は、徹頭徹尾、人間の直接の意志によつて動くものである。これに反して、機械の方は一度動力がかけられゝば人間の意志には無關係にどん〳〵廻る。自働的に働くのである。或る程度迄は、人間の制裁の外にあつて働きつゞけるのである。

現代の生活に於ては、此の機械が何よりも大きな勢力を振つて現代人の毎日の生活を決定して行く。衣食住のことから娯樂のことから——其のうちには、通信運搬、農工業が含んである——一切機械の中を通つて來ないものは殆んど無い。

のみならず、機械は時とすると人々に就業を促し、又は、休息を命じたりしてゐる。

實に、機械は過去二三代のうちに文明の構造と我々の精神とを變へてしまつた。朝起きるから、夜寢る迄に我々が接觸するもので、機械の感化を受けてゐないものは殆んどないと云つてよい位ひである。たとへば、時間の觀念に付いて考へて見るなら、我々の祖父母の家庭に於ては決して知られなかつた、又、不必要であつた時間表と云ふものによつて、今日の我々の生活は律して行かなければならない。子供が登校することから始めて出勤する時間、食事時間、物資の運搬時間、交通機關を利用する時間と云ふように我々は朝から晩迄、時計と云ふ機械に支配されてゐる。『置いてきぼり』と云ふ言葉があるが、現代生活に於て、もし、我々が此の機械の命ずる標準に從はないならば、文字通り、我々は『置いてきぼり』になつてしまうのである。昔の賢人が『ものには時節が必要、目的には時間が必要。』と云つたが、實に、時計に支配されてゐる我々の生活は其の賢人の言葉の實現である。

機械の二方面

機械には、機械的と社會的と云ふ二ツの意味がある。そして、其の第一の意味は、人間の欲望を滿すために機械を使用する方面を云ふので、これは機械の狹い意味なのである。併し、機械は文明の一要素として數へねばならないので、より

廣い其の第二の意味は機械産業が國民の性質、理想、文化に與へる訓練である。則ち、これが機械の社會面である。

併しながら。機械の此の狹い意味と廣い意味とを正確に區別することは困難である。たとへば、靴製造に付いて考へて見るなら、一足の靴はいくつもの部分に分けられて、そして、其の一部分々々々々に相當の考へと機械力が應用される。其の一ッ／＼の仕事に各々の機械が用ひられる。仕事にはいろ／＼の種類があり、機械も幾種か用ひられるのであるけれども、要するに、一足の靴をまとめると云ふ全體の仕事のうちの一部分である。それから、又、靴が出來上がつて行く機械的過程は化學的であり、生物學的であり其の他いろいろの方法を利用する。

勞働、運搬、相場の變化、これ等も皆靴製造の要素であるし、其の上に、氣候の寒暑、風、潮流ですらも靴製造に影響がある。で、それ等の要素、及び、影響を數量的正確さを基礎として、並列し、統一して、そして、靴は製造されるのである。故に、靴産業は、靴の重味、大きさ、スタイル、材料の性質、化學的成分、勞働力、時間、金の相場等の單位を定めて置く必要がある。其れ等の機械的の標準化を基礎として靴を製造し、販賣することによつて此の産業は鞏固に有利に製理されるのである。

處で、此の靴産業は、其の上に又、他の産業に直接據らなければならない。たとへば、世界中に關係を以てゐるなめし革の産業、勞働の狀態、道具、糸、其の外

料を造るに必要なる原料を供給する工場に據らなければならないのである。そしてそれ等の産業に於ても矢張り一定の標準を基礎としてゐるのである。

　現代の産業企業を非常に大きくし、同時に、非常に細く組合せられた構造となしたものは實に、此の標準化である。で、産業經營の發展と萎靡、及び、損益は、全く此の標準化の精粗如何にあるのである。で、こう云ふ風に、現代の産業は標準化された機械の單位の連鎖であるからしてどこか或る一個所に故障が起るならば凡ての部分のその圓滑なる運轉は止まり全體が害を蒙るのである。

　けれども、こう云ふ風に機械から來る標準化によつて産業を統一することは機械的方面で、これは、外部的人爲的物質的方面である。そして、此の方面と相並んで主觀的道徳的人間的の方面がある。

　實に、機械は物質を或る物品に造り上げて行くと同時に、人間のかたちをも造り上げて行くのである。普通の人の精神的態度は、彼の毎日の仕事、毎日の生活の習慣によつて定められて行く。普通の人の倫理は彼の職業、則ち、收入の源と關係してゐるのである。故に、丁度、辯護士、醫者、傳道師、或ひは、産業の經營者に別個な倫理があると同じように、職工にも炭坑夫にも交通機關從業員にも別個の倫理があるのである。

　現代に於ては、實に機械が一般的であつて、個人にしろ團體にしろ、其の生活には必ず機械が喰ひ入つてゐる以上、丁度、軍國主義の國に軍事を中心とした哲

學が現れると同じように機械を中心とした人生哲學が現れると云ふ豫想は當然なことである。中でも、機械其のものに付て最も直接に、そして、絕へず考へ働かねばならぬ階級割ち現代の勞働者が機械の感化を受けねばならぬと云ふことは明らかな事實である。が、此の勞働者のうちにも、機械の訓練に盲目的に無批判的に服從してゐる勞働者と、熟練職工卽ち機械の原則を內部的に了解してゐる勞働者とを區別しなければならず、且つ又、專門の科學的な經營者ですらも機械の生れ代りかと思へる程、機械的になつてしまうと云ふ危險があることも考へのうちに入れて置かなければならない。

機械の哲學

機械が現代生活の上に與へた文化的の影響は僅かの言葉で云ふには餘まりに大きすぎる問題である。經濟上に及ぼした影響としては、殆んど以前には豫想もしなかつた程、大規模の生產をしてゐる。そして、生活の必要品の充分なる供給を保證してゐる。機械產業は世界の資本を莫大に殖した。そして、文化の進步を可能ならしめた、勿論、富の分配の不平均に付ての苦情はあるが。實に、運搬、交通、及び、智識の普及に關して、もし、機械の働きがなかつたならば、今日此の進步したデモクラシーは不可能であつたらう。

最初、勞働者は機械の膨脹には反對したのであつたけれども、併し、機械の進步は勞働者の賃銀　並びに、生產力を增大した。で、經濟學者の結論に從へば、

今日の勞働者の位置は機械發明以前の勞働者の位置よりも確かに惡くはないと云ふことである。其の上、機械が迅速、正確、節制を强ひるので確かに道德上の訓練になつてゐると云はれてゐる。

で、米國の勞働委員であり、國勢調査委員長であつた社會學者ライト博士は、『節制と云ふことを國民に敎へた最大なる力は鐵道である』と云つてゐる。

併し、今、私が問題としてゐるのは機械の價値や、人生に於ける機械の位置ではなく、機械から來る人生哲學、機械の影響を受けて出來上る人生哲學である。機械と接觸する職業を持つてゐる者は、どうしても、機械の感化を受けねばならないが、處で、機械は現代人の生活を殆んど全部覆ふてゐるのである故に、先づ國民全體が機械の影響を受けてゐると云つてよいのである。

機械の哲學を了解するには、機械の基礎原則、則ち、因果關係から考へねばならない。昔は因果關係を神人同體說的に考へてゐた。云ひかへれば、凡ての原因に意志と智力と目的があるものと考へられてゐた。宇宙の凡ての原因の根本は無限の心のうちに存在してゐるものと考へられてゐたのである。そして、此の最終原因の學說は、ケプラーやガリレオやニユートンが現代の科學的硏究法を現す迄は行はれてゐたのである。

十八世紀迄は、原因と結果を數量的に同じように見て因果關係を說明することが普通であつた。そして、此の因果關係の觀念は、勞働者の熟練と精力が原因で

あつて、生産物が其の結果であつたのである。そして、これが手工業時代であつたのである。確かに、此の因果關係の觀念は神を偉大な創造者と見てゐた十八世紀の合理主義、或ひは、唯理論と全然一致してゐるのである。處で、機械の訓練を受けた現代人は、因果關係を、或る目的があつたものとも、又、原因結果を同數量とも考へないで、唯、一ッの過程であると考へる習慣を持つようになつた。

印刷のやうな複雜な機械に於て、我々が興味を持つ點は、精力でもなければ、又、其の機械の目的でもない。けれども精力と運動の絕へざる受け繼ぎ、則ち、部分々々の驚くべき關係が我々に興味を與へるのである。

現代の機械產業の先祖と云つてよい英國の學者は、自然界の事實を機械で說明し始めた。ベブレン博士は、ダーウィンに進化論を暗示したものは機械だと云つてゐる。それは果して事實であるかどうかは分らないけれとも、とにかく、今日の科學者は因果の關係を實際的に考へてゐる。つまり、結果から原因を押し計り且つ說明してゐるのである。もの丶絕對の起原とか、又は、最後の目的とか云ふものは問はないで、唯、中間に位ひする實驗出來るものに注意を集中してゐるのである。

故に、機械は唯物的であるのだが、併し、其の唯物主義は、唯、方法の一ッである。委しく云へば、機械の技術と其の働き方は物質界に特種なる力と法則のみを含んでゐるのである。機械は經驗を爲

し盡し、或ひは、もの丶最後の性質を私共に内觀せしむるものではない。

機械と道德

機械は精神的價値の存在を肯定もしなければ否定もしない。機械にとつてはさう云ふものは無存在である。機械は分量でのみ實在を知つて其の性質を知らない。機械は經驗に何にかを敎へる。けれども、どうして經驗を得るかを敎へない。道德、藝術、宗敎の中心に横つてゐる貴い價値も機械にとつては無意味である。機械にとつては、凡ての存在が數量的に現れて來なければ實在にはならない。

機械は人生の充實した生き〱した部分を破壞し、斷片的な惰性的な靜的な人造の世界を造る。殘酷な學問と云ふ名稱を經濟學が與へられた理由は、經濟學が數量的の單位と同盟したからである。であるから、人が機械の感化を受ければ受ける程、無情になり、無目的になり、丁度、機械が取扱ふ物質と同じ人間になつてしまうのである。機械主義は物質の力に重きを置く。つまり、如何にしてエナージーを有効に利用しようかと云ふ工夫である。實に物質力の崇拜は十九世紀の害毒であつて、そして、これが獨逸の腕力政治になつたのである。つまり、獨逸の腕力政治は機械の勝利の結果である。

政治上、の優秀な人間になることも、其の外、偉大な人間になると云ふことは皆 機械標準で計られた結果である。國民經濟が機械になぞらへて組織された時には完全の絶頂に達せられるのだと考へ

られてゐた。で、今日の實業界に於て、主張せられてゐる能率の福音も、實は、プルシヤ主義則ちニーチ　ニ主義の『ウイル、ツー、パワー』と共通點が澤山ある實に、能率主義を精細に解剖して見ると矢張り、それは腕力の崇拜であると云はれてゐる。

機械主義、及び腕力主義崇拜を基礎とした現代文明は、人間の精神に深く潜んでゐる或るものとの衝突をどうしても逃れることは出來ない。人間の肉體、及び精神は、決して、機械ではない。機械は非常に殺風景で、無趣味である。機械には詩はない。

處が、科學者の想像ですら、今は、機械に從はねばならなくなつてゐる。そして、それが差し當り有利である。機械主義は平凡であるから、機械主義の社會に於ては平凡が賞せられる。機械の目的は標準化である。そして、標準化は俗化である。もし、デモクラシーが平等を意味するものならば、機械はデモクラシーの最大なる建設者である。なぜなら。機械は凡てを一樣にする大勢力を持つてゐる。尊敬心とか、個性とか、傑出とか云ふものは一切無視される。機械には天國も地獄もない。つまり、分量の標準にかゝらないものは機械の前には存在を認められないのである。

機械は、正義の爭鬪にも無頓着である機械は善も美も眞理も知らない。であるから、機械にとつては神の意志を實行するのも惡魔の意志を實行するのも同じである。機械は道德的でも不道的でもない

機械には道德がないのである。

機械は、又、觀念と信仰との間に、純粹な思想と行爲との間に存在する妙な二元主義のものである。なぜなら、機械は純理の生產物である。實に、產業革命はジョンロックの政治的合理主義、及び、アダムスミスの經濟的合理主義の如く、十八世紀の產物である。つまり、冷めたい道理を產業に應用した結果である。機械は道德には治外法權である。從つて、機械には道德上の問題は起らない。自由と偶然と冒險的の要素が存在する處でなければ道德上の問題は起らないのである。であるから、機械は命數的な世界觀にのみ匹敵すべきものである。そして、此の機械　精神は株式會社によつて最もよく說明される。つまり株式會社は冷めたい無人格無道德な決して疲れを知らないもの、大規模の商業に機械の哲學をあてはめた、則ち、たましひのないものである。

機械と宗教

機械は忠義心に對しては懷疑的で、偶像破壞的である。機械の哲學の懷疑主義は積極的と云ふよりも、むしろ、消極的でそして、無信仰を宣傳するものである。我々の信仰並びに懷疑は哲學的思想の結果であると云ふよりは、むしろ、實際生活から來て居る。そして、數量的であるのではなく、性質的である我々の經驗を機械は無視する。我々は機械の勢力の下に、まるで、存在を無視されてゐるような生活を餘儀なくされてゐる。實に、機械は、昔の社會的正義を無視するやうな

社會狀態を造り出す故に、法律に含まれた昔からの忠義心や社會良心は着々其のかげを潜めてしまうのである。

機械は非宗教的である。たとへば、有人格の神に對する信仰を例にとつて見るなら、これは、唯物的の機械の見地とは調和出來ない。機械は超自然の君主を知らず、唯、無人格な腕力を主張するのみである。

此の機械の力にひッつかまつた西洋文明其の機械の力を謳歌する白人文明は、文化の名によつて前述の機械哲學を世界に宣傳してゐる。實に、六千五百萬の人間が最高に能力を發達させ、拔目なき指導者によつて組織され、機械の哲學を眞向に振りかざして世界征服の途に登つた獨逸は、確かに、世界の人心を凍らせた。

併し、軍國主義的な獨逸に現れた機械的の精神によつて、人類が感じた恐怖は新しい經驗ではない。人は常に幾分かは機械に對する恐れを感じてゐた。

機械と道具

我々は、絲卷とか、筆とか、手斧とか云ふものには一種の親しみを持つてゐる。それ等の道具には詩や音樂になる情操が喰つ付いてゐる。これに反して、機械には複雜さと不安と恐怖が喰つ付いてゐる。なぜ、我々は道具を愛して機械を恐れるのであらう？其の理由は道具は我々の意志に從順なしもべである。そして藝術家や、熟練職工の場合には、道具は彼等の身體の一部分である、彼等自身の合理的な創造的な天才の呼吸を道具が一所になつて呼吸してゐる。けれども、機

械は我々人間の意志から獨立して、我々人間の意志には無頓着でゐる。機械はたましひのない一種の骸骨、全く良心のない、唯、道理計りの倫理である。故に、我々が機械に服從してしまうならば、我々の人格の異體なる、自由な創造的な道德的な意志は全く無能になつてしまう。其處で、我々は機械を恐れるのである。

　機械に服從することは人間的價値を認めないことである。獨逸の軍國主義は文明を全然機械化した。獨逸の軍國主義は最も有効に最も巧みに組み立てられ、そして、群集心理によつて運用された一大國民の一種の映畫であつた。そして、それは樂園を地獄に代へたような價値の顚倒であつた。今や、人は天使の着物を着た惡魔を機械のうちに見て驚いてゐる。そして、機械文明の幻影も消滅しようとしてゐる。

　今や、人は氣付いて來た。そして、我々の心情は、人間が機械に奉仕するのでなく、機械が人間に奉仕し　人間が機械に支配されることの代りに、機械を支配するようになつた時に、始めて、機械の價値が現れることを我々に敎へてゐる。自分で造つた機械に怯へてゐる人間の智力は、今、自分自身の弱點と愚であつたことを認めねばならない。

　我々の未來は、機械を恐れず、又、機械に盲從することなく、正義と情と眞理のために機械を奉仕せしむる人に委ねゝばならぬことを、私は『デモクラシーと人種の衝突』の著者に全然同感するものである。

機械と勞働運動

最近の勞働運動に一種の機械化しようとする傾向が見えることを私は遺憾とする。露國は現に其の政體をソビエツトと云ふ名目で機械化しようとして、今は丁度、鳥がもちに喰付いたように動きがとれないで困つてゐる。そして　唯『未來に／＼』と云ふ言葉を繰り返へしてゐる併し、其の未來は、機械に服從するのでなく、機械を使用し得る手腕のある人の出現によつてのみ救はれるものであることをもう一度云つて置く。

表紙を石版刷りにするために原稿が全部出來上がらない先きに、表紙へ入れる目次が造つて石版屋へ廻してしまいます。で、本號には海外事情を澤山入れるつもりで『海外餘波』と云ふ題を入れて置いたのですが頁がなくなつてしまいまして、たつた、以下の半頁しかありません。御寛容を願ひます。

海外餘波

此の十月廿四日に合州國コネチカツト州の『婦人選擧人同盟會』は、イエール大學と合同して、婦人のために『市民學校』を開校することになつてゐる。教場は勿論同大學の教室で、又、同大學の教授が全部講師になるのである。

これは、非常に一般の注意をひいて州內は勿論州外からも外國からも續々と入學者がある。講義は一週間續くので、目的は婦人に政治の智識を授けるのであるから科目は、『政治學』『政黨組織』『社會問題』『社會、州、及び、國民に對する市民の奉仕』等である。又、一日は經濟上社會上及び政治上の國際關係及び軍備縮小問題に費される。

其の外に、國民デーと云ふのと、都市デーと云ふのと州デーと云ふのがあつて、國民デーには米國歷史の基礎事實、及び歷史、政黨の原則と使命。州デーにはコネチカツト州の立法者の身分、彼等の作用、黨派の鬪運會等の研究、都市デーには、都市問題が主要課目で　此の日にはコネチカツト州の女子大學卒業生が教育問題に付て討論をする。其の外に、又、都市の行政社會奉仕、官吏登庸等に關する講義がある。かくして政治に關する智識を大いに婦人に注入しようとするのである。

又、此の婦人選擧人同盟會は、婦人選擧人に、彼女等の精力を集中すべき社會の必要條件を發見させるために、百十二の質問を發したりした。



小賣商人根性

私達の都會生活は米國から歸つてからでありました私も夫も渡米前には田舍に住んで居たものですから。東京の様子を知らなかつた私共は日々の生活上、へマなごと許りしてゐました。私共は家を持つとすぐ自分の家に一番近い商人から日用品の供給を受けて近所同志の親密を計ろうと致しました。けれども　私共のさう云ふ態度は悉く小賣商人達のつけ入る處となりました。『あの毛唐臭い處のあるお人よしのうちへはどんな品を持つて行つても分りやしない。』と云ふ風に隨分無茶苦茶なものを持つて來ました。それで最上な品の代價を取るのでした。ごまかされるのに氣が付てからは止むを得ず、買ひ置きの出來るものは何でも遠くとも大きな老舗からとることに定めました。店の信用上餘りヒドイことはしなからうと考へて。

又、道具などには非常な掛價があると云ふことにも驚かされました。一度或る店で銅の湯沸しを買はうとして代價を聞くと三圓五十錢だと云ひます。あひにく持ち合せの金がそれだけ無かつたので私としてはもつとお金を持つて來て買ふつもりで『それでは出直します』と云つた處が、向ふでは高いから買はないと思つたそうで、行かうとする私を呼び止めて、『勉强して置きませう。いくらならお買ひになります。』と云ひます私が『今二圓五十錢しか持つてゐないので。』と申ますと『では、それだけにおまけして置きます。』と云ふではありませんか。私は恐しくなりました。僅か三圓五十錢の金高のもので一圓もどうにでもなるのでは、一體、商人と云ふものはどの位ひ儲けてゐるのだろうと云ふ大きな疑問が私の頭に一杯になりました。

自分も商賣をしてゐてアタフタ儲ける金ならどんなに儲けられても惜しくはないが、汗と血を絞つて儲かづゝ得る金をむざ／＼不當に儲けられては餘りに自分達が可哀想だと思ひました。それからと云ふものは一つおじぎをされゝば一つだけ、二つされゝば二つだけ其れだけ餘計に儲けられると云ふ氣持ちになりました『今日呉服屋で十圓計りの買物をしたがあの番頭奴おじぎを十位ひしたが、あの一つのおじぎがいくらについてゐるだろう』などゝ考へるようになりました。いつの間にか私は臆病になつて、少し金目のものは其道に目の利く人に見て貰はなければ買へないようになりました。

日々に變化して行くのが常である私共の生活はいつも同じかたを追ふてゐると云ふことは出來ないものです。子供達が小さくいつも自分のまはりに居る間は氣が付かなかつたのですが、少し大きくなつて一人で戸外へ遊びに出かけるようになつた時、私は、又、考へました。幾軒かある近所の小賣店の人達や小僧達の反感をもし私達が受けてゐるようでは子供達が何かと不利益であろうと云ふことを。なぜなら、子供達が遊んでゐる處をそれ等の店の人達が始終往き來してゐますからそれで、不都合や不便は忍んでも、もし、子供がころびでもした時には起して位ひ貰へる親切を買うために又、近所の店から取り始めると云ふことになりました。

こちらでも、自分の都合上取りひきを始めるのですから、向ふが餘まり露骨な現金主義を發揮しても別に文句は云へないわけでありますが、實に昨日迄は往來で顔と顔とを突き合せても『どこの馬の骨か』と云ふような態度で、否、むしろ、むつとした形相をして自分に對してゐた人が、ものを取り始めた瞬間からは又以前ものをとつてゐた時と同じように、先祖代々恩義を蒙つてゐた殿樣にでも對するように急におじぎをヒョコ／＼されては餘まりいゝ氣持ちのものではありません。

けれども、米の暴騰、炭の暴騰の時には私は公設市場へ走せつけました。殊に、外米ではどんなに公設市場に感謝したことでせう。あの時分には各區役所で一時外米一升二十錢で賣りました。市中の米屋でも矢張り二十錢乃至二十二錢で賣りました。處で、區役所の其の廉賣が止むと同時に一躍四十錢以上になりました。

「輸入された外米はもう切れた。市中にはもうない。」と云ふ譯はありましたが、併し、ちらほら「外米あり」とか「東京米あり」とか云ふ立札を米屋の前に見ますので「いくらですか」と聞いて見ると「四十五錢です」と云ひます。政府の補助があつたとは云ひながら昨日迄二十錢で賣つてゐたものを餘まりヒドイと思つて其の日は買ふのを止めて翌日外の米屋で聞いて見ると「四十八錢です」と云ひます。私は息が切れるような思ひがしました。併し「新宿迄行けば三十錢で買へる」と云ふ氣持ちが實に其の時の命の綱でありました。今では四谷にも公設市場が出來ましたけれども、其の時には新宿迄電車で行かなければならないので出來ることなら近所でと思つて私はあちこちの米屋を漁つて歩いたのでした。

子供を大抵二人連れて行つて二斗買つて五升づゝ子供に、自分が一斗持つて、市中で買へば十圓近くの米を六圓で買つて、四圓の差を味噌、砂糖、鹽物などに費して、また、餘まつてゐる金で子供の喜ぶ蜜柑、南京豆などを買つた時の救はれた氣安い氣持ちを私は永久に忘れないだろうと思ひます。

處で、さう云ふ見て買へるものは不都合ないのですが困るのは炭でした。めつたに豫期した品が配達されないのです。見本を見て、見當をつけて品の指定をするのですが大抵は見本とは異つたものが來ます。のみならず、市中の炭屋が、へイ／＼おじぎをしながら、大きな炭は手ごろに切つて、あらい處と細い處とを分けて、こちらで命ずる場所へ丁寧に入れて行つて與れるのに反して、市場の配達人は、まるで、慈善でも施してゐるかのような態度で裏口から炭俵をほうり込んで、こちらで「お苦勞樣」と云つても返事もせずに「うるさい」と云ふような顔して行つてしまいます。

其の上に、市中で買つた炭は、もし、品違ひであれば取りかへも出來ますし、又、次に持つて來るのを注意させることも出來ますが、市場の炭は全く「おあてがい」でどうすることも出來ません。去年の暮にお正月中のにと思つて買つた八俵のうち五俵迄は、永く地面に積んであつた炭の下積みになつてゐた處をさらつて俵に入れたものだつたと見へて、一俵のうちに五六本素晴らしく長く大きい炭があるだけで、後は、皆土と粉炭の混合物で、時々、大きな芋虫がころげ出ま

した。一俵のうちから三疋乃至四疋づゝ出ました。あんまりヒドイので市場へ行つて云つて見た處が係りの人が『ハア、さうでしたか』と計りで取り合つて與れません。勿論、係りの人もどうすることも出來なかつたでせう。澤山の品を別々な人が取り扱つてゐるのですから。臭くて仕方がなかつたのですが、捨てることも出來ず、とう／＼使つてしまいましたが本當にうち中の人に氣の毒でした。まして、お正月中。

それからさ云ふものは公設市場の炭は怖くて買へません。で、炭だけは一割乃至二割高くても市中のものがいゝと思つてゐます。其の外のものに付ては、公設市場は便利です。買つても買はなくても私は時々の相場を見るために行きます。新しい野菜が出た時などは市中の八百屋で買ふにしても先づ、市場の相場を見てからにします。どんなに高くても、其れが相場だと思へば氣持よく買ふことが出來ますから。

今後益々公設市場が活躍されることを私は望んで止みません。唯、炭に關してはもう少し親切を加味して甲虫が同居してゐるような炭は、さう言明して賣るやうにして欲しいと思ひます。

今、當局が小賣商の暴利さ云ふ處に氣がついて活動を開始されたことに對しては、とにかく、私は感謝してゐます。そして、折角、設立された世帶の會か、それと相呼應して、主婦達を覺醒するために、もつとハキ／＼と活動されたなら、更に有効であろうと思ひます。小賣商の制裁は主婦達の手のうちにあることを知らしむるために、毎週、各區へ出張して行つて講演でもすると云ふ風にして。今のように、『さう云ふ會も出來たそうだね。』位の處では本當に存在の價値がないように思ひます。

何事も、騷ぎ計りで、實際には何等の影響がない、つまり、御膳立計りが益々としてゐて、御飯がなかつたと云ふのが今日迄の通例であつたのですが、此の際、其の陋習を打破して頂きたいと思ひます。

安田翁の死に對する所想

本號「機械と人生」に於て、現代社會の構造は其の性質が根本的に産業的で、唯物的で、機械的であること、そして、機械と云ふものは無人格で、無道徳で無情であつて、疲れと云ふことを少しも知らないものであると申ました。それから、又、産業主義、唯物主義が優勢である現代は、物質及び機械が人間のために存在してゐるのでなく、機械のために人間が存在してゐる、つまり、人間が機械を支配してゐるのでなく、機械が人間を支配してゐると云ふ事實も擧げて置きました。

處で、現代の産物である安田翁は、實に、其の機械そのものでありました。實に素晴らしい金造機でありました。有効な金造機である安田翁は一代にして巨萬の富を造り上げ、丁度、米國の財界が重もにロックフエラー系とモルガン系によつて支配されてゐる觀があると同じように我が財界は安田系によつて支配されて居るかのような觀さへありました。實に金融界に於ける翁の手腕は無類のものでありました。けれども、機械の範圍を出ませんでした。ですから、私共は人間を支配する機械の偉力に戰慄すると同じような戰慄を翁の偉力に對して持つてゐました。實に、私は翁の死を聞いた時に、「ああ、大きな金造機が破された」と思ひました。そして、すぐに假りにも一人の人の死に對して何と云ふ無情な感じだらうと自分で自分を責めました。

晩年になつてからは翁も人道的な仕事に對して心が動いてゐたようであります。けれども、永年間、機械として鍛へ、歩んで來た翁が一朝にして其の歩みの方向を變へることは困難であつたでせう。心の底に温い芽がめぐんでも、過去からの惰性が其の芽を踏みにじるので、矢張り、機械として動かねばならなかつた翁はやつぱり、氣の毒な人であつたと思ひます。

感想の中から

原田琴子

私の友人の中には結婚後僅か二三年で良人に死別れた人が幾人もある。しかも大抵は子供と一緒に遺されて居る。

×

不幸なその友達の運命に對して私は限りない哀傷を注いだ。そして定めない人生の不安におびえずには居られなかつた。

やがて私はその友達の運命を自分のことゝして考へてみた。

×

私は自分の心持については豫測することを得ない、悲しみがどのやうに深いか激しいか、どのやうな絶望に陥つてしまうだらうか、そんなことは想像しようとしても出來ることではない。人間の感情は前から分るものではないのだから。私の今考へるのはたゞ實際生活上のことばかりである。

×

物質生活に安定のないやうな者にとつて第一の問題は「どうして生活しようか」といふことであ

らう。自分と子供とが生きるためには何とかして働らかなければならない、世の中へ出て稼がなければならない。それは痛切な必要であるに違ひない。けれども、では私がどんな職業に就けるといふのだらう。

私は普通の高等女學校を出たばかりの女である、小學校正教員の免狀さへ持つて居ない、そんな形式上の事は如何でもよいとしても、どれほどの實力があるのだらう。極めてあぶなかしいものである。でも一心になつたら何かしら出來ぬこともないかもしれない、けれども子供を人手に託してさうして外へ出て働らいて自分と僱ひ人との生活費が果して得られるものだらうか、この物價の高い世の中で、一般婦人に對する報酬が男子のと比べてはまだ〳〵低く見積られてゐる社會で！それからまたたとひ自分の腕一つで生活し得るとしても子供を他人の手に託すといふことにいかほど大きい遺憾が伴ふことであらうか、かう考へて來るとたゞ恐ろしいばかりである。

國家が母性を保護すべきであるといふ、然しそれはまだ一部の人の理想に止まつてゐる現在ではこの場合私達はいやでも自活の途をとる外にないのだ、尠くとも他人にひざまづいて憐れみを乞ふことを爲し得ないならば。

×

お前はなんといふ馬鹿だ、今更そんな問題について思ひ病むといふのは、私の心の中のあるもの

がかう叫ぶ。

お前がそんな問題のためにくよ／＼考へるといふのは、今のお前の心持が全く物質の生活に囚はれてゐるといふ事の何よりの證據だ、お前はたゞ月々の經濟の事よりほか考へない、少しでも倹約して子供の學資を貯へておかうといふほかに希望はない、そしてそれが親としての正當な義務だと信じて居る、お前の生活はいつの間に左様下落してしまつたのだ。子供のためによい母とならうとする本能慾がお前をさうさせたのか。

お前はお前自身であらねばならない、お前自身であるために何を爲すべきかはとうに分つてゐる筈ではなかつたか。學校で多くの課目のある中から特にある一課目を好むといふ様に、たくさんある人間の仕事の中からお前はある一つを選んだのではなかつたか。さうしてそれ以來、どのやうな悲しみにも苦しみにも窮乏にも堪へてたゞその一つの努力の中から自分ひとりの生命の價値を見出でようとしたのではなかつたか。

×

子供に美しい着物を着せたいとは思はない、けれども子供が大學を出るまでの學資丈は貯へておきたいとお前はいつも思つて居る、なんといふ世俗的な煩惱だ。さういふ類ひの煩惱は際限のないものなのだ、お前が子供が大學を卒業るまでの充分な學資を今かりに貯へ得たとする、だがもしも

子供が中途で病氣になつてそのためにその學資の大半をいやでもつかはねばならなくなつたら如何であらう、取越苦勞に盡くる時はない、お前の子供が大きくなる時分には今の社會狀態すらどんなに變つてくるか分らぬのだ。

お前はなんでも第一に子供のためと考へる、然し子供はお前の未來なのだ、お前は現在の自分を離れて子供を考へることは出來ない、考へ得るやうに思つても實際は考へ得ないのだ。未來に希望をなくのはいゝ、けれども現在に忠實に努力することを忘れてはならない。お前が眞にお前自身の價値ある生活をするならば、子供は大きくなつてから必らずその母を尊敬するに違ひない。

お前自身の價値ある生活。それはお前によく分つてゐる筈ではないか。

私の心の中のあるものはかう云つてをしへる。

×

子供のために財產を遺すな、慾望を傳へよとある人々はいふ、私の理性は無論それに贊成する。でも煩惱だと叱られても何でも私は子供の教育費を貯へようと心がけることを止める氣にはなれない、子供には子供自身の生活がある、苦學でもさせるがいゝ、その方が却て子供のためにならうかもしれぬ――とは思ひながら。私は凡俗な母の一人なのであらうか。

教育社會學講話（第九回）

人口論

群居の二種

一地方に人間が群居するようになるには、二ッの方法のうちのどちらかの一ッによつてゐます。則ち、其の土地に生れるか、さもなければ、他所から移住して來るのです。子に子が殖へて大勢になつた、つまり、同一の先祖の後裔であるのと、又異つた先祖を持つてゐる他所から集まつて來たものとの二種あるのです。そして、前者はジエネテック（產生的）と云はれ、後者はデモテック（庶民的）と云はれてゐます。

とは云つても、今でこそ、彼方此方と別な地方に異つた人種となつて生活して居ても、極く〳〵以前に溯つて見るならば、皆、同一の先祖の子孫で、そして、同じ處に住んで居たのかも知れません。けれども、それが一體、いつ頃で、そして、何處である

つたかは分りません。猶、又、今日生存して居る種族は、いつ、そして、何處に生存して居た種族から出て居るかと云ふことは推測出來ますが、併し、それは、唯、推測であつて正確には分らないようです。

人種に違ひがあることは勿論ですが、其の人種の違ひに加ふるに、同じ人種でも國によつて其の性質が違ひます。つまり、國民性の違ひと云ふことがあります。そして又、同じ國民のうちにも各地方的の差があります。のみならず、各家族も亦それ〲の特長を持つてゐるものであります。ですから、人種の研究に於ては、此の地球上の人間が、皆、同一の種族であるとの斷定を下すことが出來ず、いろ〲の異つた種族の無數の變種として見なければならないのであります。で、勿論、其の變種に血液の混合があることは明らかな事實で、從つて、純粹な種族とか、純粹な國民性とか云ふものは極めて少ない、否、殆んどないと云つてもよいのであります。其處で、人間の群居は重もにデモテックで、少なくとも、彼等が群居し始めた時にはデモテックであつたと云ふことが出來ます。

けれども、時が進むに從つて、其のデモテックな群居がジエネテックになるのであります。全く、無關係であつた男女の二人が同棲することよつて始まつた家族は、五六十年の後には同族の一團體となります。ですから、百年前に彼方此方の異つた地方から集まつて來た人達で始まつた一村落は、お互ひに見ず知らずの人達で構成されてあつて全然、デモテックでありますが、併し、百年後にはジエネテックとなり、同族の一人口になつてしまうのであります。

北米合衆國の住民や、西歐洲諸國の國民は、其の最初に於ては、より集りの人間で全然、デモテックであつたのですが、非常な速度でジエネテックになつてしまいました。そして、一地方に集まつたいろ〳〵な種類の人間のうちで、特に、優勢であつた人種が其の特長を其の地方に植へ付けてゐます。

此のジエネテック則ち產生的の統一がギデング博士の『同類意識』の一ッの基礎となつてゐます。肉親と云ふことを昔の人は現代人よりも遙かに重要視してゐました。昔の人を動かしてゐた肉親と云ふことの力の强さを今日の私共は相像することさへ出

來ないかも知れません。けれども、それと同種類の例を私共は、今、動物のうちに見ることが出來ます。つまり、動物は『類をもつて集まる。』のであります。類をもつて集まつてゐる鳥類、又は、動物は他の種類の鳥、又は、動物を無視するか、或ひは、敵視してゐます。そして昔の人の生活も矢張り其れと同じであつたのであります。

昔、希臘や羅馬では、其の國の家族の者にならなければ歸化が許されなかつたと云ふことです。そして、今、他人に對して『兄弟』とか『私の子供』とか叫びかける親しい言葉は、血屬關係を基礎とした時代の反映であると云はれてゐます。で、もし、血屬關係が存在してゐない處に親しい關係を造らうとする場合にはお互ひの血をすゝり合ふと云ふようなことをして人爲的に血液の交叉を行つたのであります。

血屬關係と云ふことは、今日に於ても、貴族のうちではなか〳〵優勢であるようであります。けれども、普通には、家系、國民性、種族の優秀と云ふようなことは、種々雑多な人種が一所に群居するようになつて、そして、彼等の間に競爭が烈しくなつた場合に一層はつきりして來て、そして、優秀な種族は其の種族の純を保つことに努

力するやうになり、人種の純を保つと云ふことを原則とするやうになります。東洋人種、黒人種、及び猶太人などに對する米國民の偏見も、要するに、白人種を純に保たうとするに外ならないのであります。

けれども、現代の傾向は血屬關係と云ふことを益々輕視しようとしてゐます。自分の先祖を誇らうとするやうな人は却つて人に馬鹿にされます。一九一一年に、始めての人種大會が倫敦に開かれて、世界中の有名な學者が集合し、四日に渡つて人種問題が論ぜられたことや、又は、大きな大學校內には『萬國倶樂部』と云ふものが設立されてあつて、そして各國の學生が同胞主義のもとに交際して居るのなどは、確かに、人種別に對する現代の考へが違つて來たことのしるしであります。

移民

移民は、勿論、一國の人口をデモクラチックにする大きな要素であります。合衆國北部の人口の凡そ半分は異國人であります。これに反して、南部に於ては、多くの黒人が居て一種のデモクラチックな處であるにも拘らず、併し、異國人の要素は極く少ないと云

はれてゐます。合衆國第十三回目の國勢調査によると、合衆國中、異國人が一番多い州はミネソタで、其處の人口の七割一分五厘は異國人で、そして、最少はアラバマで、此處に住む異國人は全體の人口の二分四厘だと云ふことです。併しながら、合衆國では外國移民の外に州と州との間に移民があつて、これがデモクラチックな人口を造る大きな要素であると云はれてゐます。バージニヤ州の如きは他州生れの人が八割九分四厘を占めて居るそうです。

合衆國諸州のうちで、其の人口のジエネチックな性質を移民のために損はれない程移民の數の少ない州には、必ず黑人が多數住居してゐて、其の州の敎師、及び其の他のあらゆる社會奉仕者に絕へず大問題を提供してゐると云ふことです。

白人種が亞米利加を所有して以來、其處の土人の人口は少しも殖へません。前世紀中に、殊に減少したそうであります。で、今では、合衆國政府の政策の結果として、彼等は二三の地方に追ひ込まれてしまつてゐます。從つて、彼等に關する問題は起らないのであります。

人口がジエネチックであるとか、デモチックであるとか云ふことを研究するには新興國なる合衆國を例にとるのが最も便宜であります。實に、合衆國は人口の性質に關しては、其れを四ッに分つことが出來ます。

(1)南部諸州は黒人が非常に多いが、併し、外國からも他州からも移民は少ない。(2)北部諸州は土地で生れた者よりも外國移民が遙かに多い。(3)中央北部は、たとへ、兩親か、又は、片親が外國生れであつたりするけれども、とにかく、現在に於ては土地で生れた者が大部分を占めてゐる。(4)西部諸州は人口の四分の三が外國からの、又は、他州からの移民である。と云ふようなことになつてゐます。

人口の性質と敎育

人口がジエネチックである社會は、凡てに於て、其れ自身の標準が鞏固でありますから、容易に新しいものを受けいれないと云ふ傾向があります。これに反して、デモチックな社會には一定の標準が、先づ、無いと云つてもよい位ひのものです。敎育のような複雜な事柄に關しても、なか〳〵標準と云ふものが設定されないのであります

なぜなら、後から〳〵這入つて來る人が、皆、それ〴〵の標準を持つて來ますから、統一が不可能になるのであります。で、理想が渾沌として居ますから、餘程大きな新しい理想が發生しなければ統一は出來ません。そして、始めに現れる理想は必ず物質的であります。合衆國西部の或る都會で要求する敎師は、いつも、意志の強い、確實な資格のある人です。で、さう云ふ敎師は殆んど自分の思ふ通りな仕事が出來、其の上に、俸給も必ずよいのでありますが、併し、自分の理想の効果を早く現して見せなければならないと云ふことです。

人口の密度

社會の組織は人口の稠密さの如何によつて、根本的に違つた來ます。人口は他の生物と同じく、食物及び其の他の必要品の制限に達する迄殖へて行きます。過度時代には、則ち、野蠻人が所有して居た土地を文明人が占領したような場合には、其の土地が産出する物資と比較すると人口は非常に少ないものです。けれども、さう云ふ場合には人口は一代毎に二倍づゝ增化して行つて、そして、ジエネテックの增加計りでも、

直きに、物資の制限に迄達してしまいます。のみならず、まだ、人の手がつけられてない富源は移民をひきつける大きな引力でありますから、富源のある新開地は一代が經過する前に其の土地の人口はもう一杯になつてしまいます。

たとへば、メキシコが加州を米國に渡した時には、加州の人口は實に稀薄で人間が住んでゐるかゐないか分らない位ひであつたのです。處が、其の年に金坑が發見されました。移民がどん〳〵流れこんで行きました。そして、二年後の一八五〇年には人口が九萬三千となり、十年後には三十八萬人になつたのであります。

人口の配置は、又、其の土地の產業の性質にもよります。人口を最も平均に配置するものは農業であります。これに反して、一個所に多くの人口をあつめるものは採掘業であります。或る山間に鑛山が發見出來れば其處には直ちに町が出來ます。農業の補助でない產業は、必ず、多くの人口を一個所に集め、可なり大きな都を構成します。そして、大都會を造るものはどうしても商業であります。で、次にギデングスの說を御紹介します。

「人口の密度は、其の土地が產出する食物の分量による。社會進化の始まりは、いづも、物資の豐富な土地に見出さるゝ。人口の密度は產出さるゝ食物の分量によると云つたが、作し、其の食物の供給は土地から直接來るのでも、又は、其の土地の製造品との交換として間接に得るのでも同じである。そして、社會の活動と進歩とは、或る一定の範圍內に於て、人口の密度によるものである。

「瘦せた土地に散在する稀薄な人口は、元始的方法による小規模の產業しか出來ない。分業もごく幼稚な分業しか行はれない。從つて完全な道路も、速かな通信機關もない完全な道路とか速かな通信機關とか云ふものは、高度に發達した產業組織と完全な資本の運用を持つた或る密度の人口によつてのみ可能なものである。

「高度に發達した政治生活も亦人口の稠密な處にのみ可能である。公民としての自由と云ふことは議論を意味する。そして、議論とは、別々な利害を持ち、別々な見地から人生を眺めてゐる多くの人が會合することによつて始まる。そして其の自由に對する運動は、普通、先づ都會から始まる。米國の獨立運動も、奴隷廢止運動も、社會主義

運の動も、單稅主義や、國民主義の運動も、皆、都會生活の產物であつた。

『敎育、宗敎、藝術、科學及び文學の發達は皆或る程度迄の人口の稠密に據るものである。其の外、小中大學、敎會、新聞、出版業、圖書館、及び博物館等の存在も或る程度の人口の密度によつて維持される。故に、それ等の諸制度が衰微に傾くと云ふことは人口減退の第一のしるしである。村落が荒廢する前には、必ず、學校や敎會が淋しくなると云ふことは既でに經濟學者の注意を引いてゐる事實である。』

人口の密度と小學校

人口の密度は學校を專門化すると云ふ影響があります。もし、一學校に於ける生徒の數が僅かならば敎へることに變化がないから從つて裝置も貧弱であります。これに反して生徒の數が殖へれば殖へたゞけづゝ、敎育の範圍が廣くなり、文化其れ自身と同じように進んで行きます。ですから、大學は大都會のうちか、又は、大都會の近くにいつも設立されます。

合衆國北部の大中學協會は、前述の理由で、四人より少ない敎師で敎へられるよう

な生徒の少ない中學の設立を許下しないことになつてゐます。一九一二年の調査によると許可を受けてゐる八百の學校のうちで、僅かに七十四だけが人口二千五百內外の町に設立されてあつたと云ふことです。其の位ひの人口をもつてゐる處は合衆國內に五百以上もあります。

アイオア州々立大學の『敎育時報』が次のように云つてゐます。『都會の敎師の給料は田舍の敎師の給料よりも高いけれども、併し、一人々々の生徒に割り當てゝ見ると都會の敎師の方が二割五分安くなる。又、校舍及び設備は田舍のとは比較にならない程都會の方が立派だが、それでゐて各生徒に割り當てられる其の維持費は田舍よりも都會の方が一割八分安い。』と。

舊い國の農業地には村々が出來てゐて農夫達が其處に住んでゐるから小學校問題は比較的單純であるけれども、合衆國のやうに新しい大規模の農業を營んでゐる處では其れがなか〳〵難しい問題だとされてゐます。なぜなら、農夫は大抵自分の耕作地の中に住んでゐて、そして其の一農夫の耕地の面積は平均一三六エーカー(一エーカーは

我が四段二十四歩）であります。それ等の地方に設立された或る小學校の生徒が一度四百人に達したそうでありますが、それだけの生徒を學校に運ぶために十九臺の荷馬車が用ひられたそうです。平均四哩から五哩離れた處からの通學でありましたので。

編輯の後

裏の空地に生ひ茂つてゐる 雜草の中から三寸計りの丈(たけ)の千なり酸漿(ほうづき)を一本採し出して來て 子供達は狂喜してゐます。そして、初夏の頃、美しい朝顔を盛つて 誇つてゐたけれども、其の後 暗いゑんの下にくすぶつて居た最小型の土鉢が再び 明るみへ取り出されて、 可愛い姿の千なり酸漿の 家となりました。『母さん、ほうづきが三ツなつてゐるよ。今に此の花が實になると四ツにならア。』小さな植物を中心に庭が大騷ぎです。

私は子供の時分、かぼちや畑の中などで、大樹のやうな恰好をして、其名の通り、ほうづきが千も、其れ以上も、鈴なりになつてゐるやうな其植物を見付けて大喜びした時の事を思ひ出し、都に育つ子供が接觸する 天然物の貧弱なのが不憫になりました。

其の晩私は夢を見ました。閑靜な郊外を 散歩してゐると とある家を圍んだ 垣根の外側に一尺計りの高さで二三十はほうづきが なつてゐそうな千なり酸漿を見付けて、根を痛めないやうに 拔き取ろうとしました。不圖、心の隅で、『いや、これは此の垣根に圍はれて ゐる家のものだ。お前がそれを持つて行けばお前は盗人だ。』するともう一ツの心が『こんなもの、たかゞ草ぢやないか。垣根の外に生へてゐる草を取つたからと云つて盗人ぢやない』二ツの心が暫くもみ合つて ゐましたが『それは草だ』と云ふ心に、子供を喜ばせたいと云ふ心が味力をして強くなつたのでツイに、私は 其の酸漿に再び手をかけました。同時に、『お前は盗人だ！』と云ふ心の叫びにびツくりして私は目をさましました。汗がびツしより肌をぬらしてゐました。そして、『私もやツぱり親馬鹿かしら…』と考へるのでした。

本誌定價表

一册	金二十五錢	送料五厘
六册	前金 金壹圓四十錢	（送料共）
十二册	前金 金貳圓七十錢	（送料共）

■誌代及郵税は前金の事御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと■郵券代用は五厘切手にて一割増■廣告は御照會次第御相談いたします

大正十年十月二十三日印刷納本
大正十年十一月一日發行

東京四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人 山田嘉吉

東京神田區仲猿樂町十七
印刷人 大杉直次郎

東京四谷區南伊賀町四一
發行所 婦人と新社會社
振替東京五三六八八